

事業コード	H21-建-継-04		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	通常砂防工事		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	沼山沢川		担当課長名	藤田博美
箇所名	横手市大沢字沼山		担当者名	主幹(兼)班長 木内 昭
総合計画との関連	政策コード	16	政策名	快適で災害に強い生活基盤づくり
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	浸水被害対策戸数(累計)

1. 事業の概要

事業期間	H05 ~ H24 (20年)		総事業費	17.3億円	国庫補助率	1/2
事業規模	砂防えん堤工3基、溪流保全工L=1295m、床固工3基					
事業の立案に至る背景	平成13年8月豪雨で流出した土砂により、沼山集落に通じる市道が一時不通になり集落が孤立する被害があった。また、近年、溪岸浸食が著しく河床には不安定土砂が多量に堆積しており、今後も融雪時や大雨時には大きな被害を及ぼす危険性がある。氾濫区域上流部には沼山集落、集落に通じる市道、下流部には中高一貫校、幹線市道、JR線などの公共施設や住宅地の保全対象を抱え、土砂流出による集落の孤立を防ぐとともに下流にある学校などの公共施設や住宅地を土砂災害から守るため、砂防施設を設置するものである。					
事業目的	砂防施設を設置することにより、河床を安定させ土砂の流出を抑制し、土砂災害から住民の生命財産を守る。 【保全対象】 人家40戸、耕地10.1ha、橋梁6基、JR線156m、市道5555m、中高一貫校、公民館					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,728,000	1,728,000	0	
	経費内訳	工事費	1,193,000	1,193,000	0	
		用補費	300,800	300,800	0	
		その他	234,200	234,200	0	
	財源内訳	国庫補助	864,000	864,000	0	
		県債	777,600	777,600	0	
その他		0	0	0		
一般財源		86,400	86,400	0		
事業内容		本工事 詳細設計 調査設計 用地補償	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償			
事業の進捗状況	全体計画 17.28億円 平成21年現在 13.16億円 進捗率 76%					
事業推進上の課題	砂防えん堤工3基のうち1基について、約100人の共有地がある。					
関連する計画等	「秋田21総合計画」第3期実施計画において「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	近年、全国各地において集中豪雨に伴う土砂災害が発生しており、ハード・ソフト一体となった砂防設備整備が急務になっている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率				
	指標式	土砂災害危険箇所整備率 = 概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	23.4 %		データ等の出典	県 河川砂防課	
	実績値 b	23 %				
達成率 b/a	98.3 %		把握の時期	平成21年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	下流域には人家40戸のほか、避難路となる市道や中高一貫校などを保全対象としている。平成13年の豪雨では、溪流から流出した土砂のため、市道が一時不通になり沼山地区が孤立化するなど被害が出ている。 このようなことから地元要望もあり、対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	渓床には不安定な土砂が大量に堆積しており、早急に対策を講じる必要がある。	10点
有 効 性	砂防事業は砂防法第5条により工事は都道府県が行うものとして位置づけられている。また、被害想定範囲は広範囲であり集団移転等の代替案は困難である。 また、対策により下流域の多数の人家40戸や公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	10点
効 率 性	事業の費用対効果は1.23であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 18.09億円 ・総便益の現在価値 22.32億円 [コスト縮減等の取り組み状況] ・現地発生材を利用した砂防えん堤工の採用などコスト縮減に取り組んでいる。	30点
熟 度	[地域の状況] 平成13年の豪雨により、流出した土砂で市道が一時不通となり、集落が孤立したことから、地元から事業の早期完成を熱望する声は高い。 また、一部共有地により用地買収が難航している。	10点
判 定	ランク () 地元からの要望は高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。また、近年にも土砂災害が発生していることから継続実施し早期完成が望まれる。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H21-建-継-04)
箇所名 (横手市大沢字沼山)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20		
緊急性	危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
	斜面、渓流等の危険度	若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10		
有効性	災害発生時の影響	変化なしまたは増加している	10	10	
	保全対象数の変化	若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10		
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	コスト縮減計画無し	0			
計		30	30		
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	5	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している		0			
計		30	10		
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		